

「完全に神を赦すということ」

ハバクク 2:1, 3:17

今日皆さんにお話しする内容は『本当に神を赦すということ』です。そして地上で最も難しい「なぜ神は苦難を許されるのか」というテーマです。皆が苦しむと知りながら、なぜ神は人類を作られたのでしょうか。ここで「悪の問題」が出てきます。

■ ハバククの証

旧約聖書の中で、ある預言者がいます。その名はハバククです。彼は、神がなぜ悪を許されるのか知りたと思っていました。ある日、ハバククは神にこう尋ねました。「その答えが知りたいか」「はい、知りたいです」とハバククは答えました。「今からあなたに会いに行く」と神が言ったため、ハバククはこうしたと書いてあります。『私は、自分の物見のやぐらに立ち、皆にしかと立って見張り私の訴えについて、主が私に何を語られるか、私がそれにどう応じるべきかを見よう。』（ハバクク 2:1）そこで神はこう言われました。「悪についての質問に答えよう」「幻を板の上に書き記して、確認せよ。この幻は、定めの時について証言し、終わりにして告げ、偽ってはいない。』」ハバククにとってこの答えは問題を先送りにされたようなものでした。「この幻は終わりにして告げる」つまり、神はこう言われたのです。「苦難を許す理由は終わりの日に伝える」と。「終わりの日」とは何でしょう。本当に最後の日です。イエスが来られる時です。全ての者がひざまずき、全ての舌が「イエス・キリストは主だ」と宣言する日のことです。「その答えでは足りません、今知りたいのです」とハバククは言うこともできたでしょう。しかしハバククには何か起きたのです。神がいま答えを出さないことを受け入れたのです。いずれ終わりの日に明らかにされるのだと。2000年前に十字架にかかって死なれた神の子イエス・キリストが再び来られるときに神は全ての疑いを晴らされると信じたのです。ハバククは質問の答えを得られずとも、代わりにこの証をしました。「『いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木には実りがなく、オリブの木も実がなく、畑は食物を生み出さず、羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。しかし、私は【主】にあって喜び踊り、わが救いの神にあって楽しもう。』（ハバクク 3:17）」その時ハバククはもう一つの啓示を受けました。「『しかし、正しい人はその信仰によって生きる』」ヘブル語ではこう書かれています。「正しい人は神の忠実さによって生きる」そのように生きる者は、義と認められると言われたのです。

■ 神は信仰を義とされる

信仰が義とされた最初の人アブラハムでした。彼は 85 歳であり、妻サラは 75 歳で、子どもはいませんでした。アブラハムは非常に落ち込んで神にこう言いました。「神様、私はこれだけ豊かです。しかし誰に財産を残せば良いのでしょうか、召使いのエリエゼルですか」と神はアブラハムにこう言いました。「天幕の外に出て星の数を数えなさい」アブラハムは夜空を見上げて星の数を数え始めます。神はこう言われました。「星は数えきれないほどあるだろう、あなたの子孫もそのようになる」アブラハムは信じました。それを神は良しとされ「そのためあなたを義とする」と言われたのです。

■ 私たちも転嫁され義とされている

これが使徒パウロが信仰義認について語る上で最初に示した話となったのです。神が御子を送り、私たちの罪のために十字架にかけられたという福音の約束を聞く時、私たちの良い行いに対する期待を捨ててイエスの血潮にのみ信頼した時、自分自身に持っている信頼を十字架でイエスがなされたことと置き換えた時に、神は転嫁され私たちを義とされるのです。アブラハムが約束を信じた瞬間に、神が彼を義とみなしたのと同じように、いまの私たちも同じように救われているのです。

■ 私たちが信仰を持つため

マリアとマルタがヨハネ 11 章に出てきます。彼女たちはイエスのところに使いを送りこう言いました。「あなたの友ラザロが病んでいます」彼女たちはイエスがすぐにベタニアに向かいラザロを癒されると思っていたでしょう。しかし、イエスはその場に留まったのです。イエスはラザロを愛していたの

に、なぜ死なせてしまうのか、弟子たちは理解できませんでした。ラザロの死を許した理由についてイエスはこう述べています。ヨハネ 11:13 にこう書いてあります。「『わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいますが。』『あなたがたのため、あなたがたが信じるため』」極端に言えばこうです。「あなたが信仰を持つためです」義認は信仰によって生きるのです。信仰において基本的に 2 つの視点があります。1 つ目はこの世の視点、無神論者の視点です。「見えることこそ信じることだ」というものです。2 つ目は聖書的視点です。「見えないものを信じること」です。ヘブル 11:1 にこうあります。「信仰は、望んでいることを保証し、証拠がない、見えないものについて確信することなのです。この世の視点、無神論者の視点は、イエスの十字架の前に示されていました。祭司長やローマ兵がイエスにこう言った時です。「神の子であれば、十字架から降りてきなさい。そうすれば見て信じるのできるのだから」彼らは見れば信じるのできるのです。しかしそれは「信仰」ではありません。見えなくとも信じるのが信仰なのです。私たちは信じることを選びます。なぜなら内なる聖霊の証しによって、聖書にある神の言葉をそのまま信じるのできるからです。

■ 更に良いものを与えるため

もう一つ興味深いことがあります。ラザロを癒しにイエスが行かなかった理由はさらに良い考えがあったからです。イエスはラザロを蘇らせることの方が、彼を死なないようにするよりも良いと思われたのです。ラザロが死んでから 4 日も経った時にイエスは墓の前に現れました。そして急に大声で叫んだのです。「『ラザロよ、出て来なさい。』」するとラザロは死から蘇り神の栄光を現したのです。イエスがこのようなことをなさるとは彼女たちは思いもしなかったでしょう。ですから神が全てを明らかにされる時も同じです。皆が「考えたこともなかった」と思う方法でそれをなさるでしょう。しかし、神は神のように働かれるのです。あなたには理由が分からないかもしれませんが、神はあなたのためを思ってそうされているのです。あなたが理由を見出せないのは信仰を持つことができるためなのです。神を責めることをやめて、神を自由にする者は神を信じたことを感謝できるでしょう。

まとめ

「なぜ神は悪を許されるのか」という質問に対してクリスチャンは今、神への疑念を晴らすことができます。「主よ、私は理解できませんがあなたを責めません。なぜならその日が来ればあなたは全てを明らかにされるのですから。私はその日まで待ちます」聖書的な信仰の姿は、あなたが神に対して正直になることです。あなたの文句を神に伝えることで神を本当に赦すことができます。もう一つすることがあります。それはあなたの知っている真理について喜ぶことです。神に対して正直に文句を伝えるだけでなく、あなたが感謝していることを書き出すのです。そのリストを作ってみてください。これは主に喜ばれることです。もう一つできることがあります。惨めに思う気持ちを全力で食い止めます。自分の資格を主張する思いと戦いましょう。それらの思いに委ねてはいけません。「神が私を殺しても、私は神を待ち望み、なおも私の道を神の御前に主張しよう。」ヨブがこう言ったように神は義なる方であり、全ての出来事において目的を持っておられると信じましょう。あなたは常に信仰の特権を持つとは限りません。なぜなら黙示録 1:7 にはこう預言されています。イエスについて述べられている箇所です。「見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。地のすべての部族は彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。」この特権を一時的に与えられていることを神に感謝し、いつも最善のものを与えてくださるようとしている良い神であることを信じていきましょう。

(要約者:西寄芳栄)

(2020年9月6日)